

Libro de Alexandre I

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem that consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many diverse and various episodes such as that of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to historians. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century AD. So, in this work by an unknown author, perhaps a cleric, a mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), the style of which is referred to as *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This translation covers from the first strophe to the 195th.

アレクサンダーの書 I

太田 強 正 訳

アレクサンドレの書は 13 世紀の最初の約 30 年の間に書かれたと推測される 10700 行からなる大叙事詩である。

これは 33 歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前 4 世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約 1200 年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後 13 世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Chatillon の *Alexandreis* を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア (*mester de clerecia*) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (*juglares*) によるメステル・デ・フグラリーア (*mester de juglaría*) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (*cuaderna vía*) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

今回は第 1 連から第 195 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければ

ばならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

- 1 皆さん、私の奉仕を受けたいのなら
 喜んで私の技であなたたちに仕えたいと思います
 人は自分の知っていることを出し惜しみしてはいけません
 もしそうでなければ、罪になったり、叱責を買ったりするでしょう

- 2 私は素晴らしい技をもっています、それは旅芸人のそれではありません
 それは過ちのないものです、聖職者のものですから
 クワデルナ・ピア¹⁾による韻を踏んだ話で
 音節が決まっていて、素晴らしい名人芸です

- 3 私の判断では、それを聞きたい人は
 私から慰めを、そして最後には大きな喜びを得て
 自分で復唱できる良い武勲詩を覚えるでしょう
 それによって多くの人がその人を知ることになるでしょう

- 4 私はあなたたちに長い前置きや紹介をするつもりはなく
 すぐに本題に入りたいと思います

造物主が私たちを十分に知恵ある者とし
もし何か過ちを犯したら、助けてくださいますように

- 5 私は異教徒の王の本を書いてみたいと思います
彼は非常に勇ましく、勇敢な心の持ち主でした
全世界を征服し、それを手中に収めました
もううまくいったら、自分ことを悪くない書き手だと思うでしょう
- 6 ギリシャの王であった君主アレクサンダーについては
寛大で勇敢で非常な知恵者だったのですが
強力な王であるボルスとダリウス²⁾を破りました
彼は卑劣な人間とはまったく無関係でした
- 7 アレクサンダー王子は幼少期にすぐに
大物の片鱗を見せ始めました
平民の女の乳を決して吸おうとしませんでした
いい家柄か高貴の出でなければ
- 8 この王子が生まれたとき、大きなしるしが表れました
空気が変わり、太陽が暗くなりました
海が全体が荒れ、地が震えました
もう少しで全世界が終わるところでした
- 9 他のもっとよくあるしるしが表れました
雲からゲンコツのような石が落ちてきました

さらにもっと大きなあるいはそれくらいのしるしが表れました
二羽イヌワシが一日中争っていました

- 10 エジプトの地では、これは文字で書かれたものが見つかったのですが

子羊が生まれた日にしゃべり

雌鶏が怒れる蛇を生んだのです

これはすべてアレクサンダーのために表されたものでした

- 11 彼の誕生に際してはもっと他のことが起こりました

位の高い伯爵たちの息子が百人以上生まれました

この子らは皆喜んで彼に仕えることになります

書物にそう書いてあります、私が嘘をついていないのを知ってください

- 12 彼は非常に貴重な手法をすぐに覚えていきました

すぐに勇敢さや自由を身につけていき

年齢と共に心が成長していきました

まだ言葉がほとんど話せないうちから、人々はすでに彼を恐れるようになりました

- 13 人々はお互いにブツブツ話し合っていました

《この子はインドの民を征服するだろう》

両親のフェリポとオリンピアスは

とても喜んでいて、すべてに注意を払っていました

- 14 王子は子供であったけれど、大きな心を持っていました
小さい体に獅子の勇ましが宿っていました
しかし私はあなたたちに彼の幼児期のことを話すのを終わりにしたいと思います
というのは私たちは本題に移ったほうがいいからです
- 15 わずかの年月で王子は成長しました
人はこんなに成熟した子供をかつて見たことはありませんでした
すでに武器を欲しがり、王国を征服したいと思っていました
ヘラクレスに似ていました、それほど勇敢だったのです
- 16 父親は彼に7歳で読むこと教え
良識と知識をもった師をつけました
最良の師をギリシャで選ぶことができました
すべての分野で彼を教えることができるような師を
- 17 七分野の講義を毎日受けていました
そのすべてについて毎日議論をしていました
非常な機知と繊細な心を持っていたので
師たちをわずかな間で負かしてしまいました
- 18 すべて聞いたことは決して忘れませんでした
見たことはすべて見逃しませんでした
教えれば教えるほどもっと多くを学んだでしょう
無価値なものには気を止めなかったことを知っておいてください

- 19 彼がよく見せた繊細な機知のため
師のネタナモ³⁾に似ているといわれました
そして彼の息子だとも、非常な噂になりました
そうであろうとなかろうと、民全体が度を越していました
- 20 王子はその噂を隠蔽しておくことができませんでした
心に重くのしかかって、耐えることができませんでした
ネタナモを塔から突き落とし、それで彼は死ぬことになりました
《息子よーと父が言いましたー、神がお前を生かしておいてくだ
さるように》
- 21 王子は十五歳になるにはまだ二年ありました
その時には顎にヒゲが生え始めていました
世の中のことがどうなっているのか考えるようになっていきまし
た
老人たちになにどんな苦悩があるのか理解しました
- 22 その時まではギリシャの諸王は
バビロンの王に貢ぎ物をする臣下でした
ダリウス王に一定の貢ぎ物を納める義務がありました
好むと好まざるとにかかわらず、それに耐えなければなりません
でした
- 23 アレクサンダー王子がそのことを考えていくと
顔色が変わり、様相が一変していききました
彼は色白だったのですが、黒くなっていき

日の三分の一は黙り込んでいました

- 24 激しい怒りで両唇を噛みしめていました
ひどい病にかかった病人のようでした
彼は言っていました、《ああ、ひどいことだ、いつその日を見る
ことができるのだろう
この暴挙を嘆くことができる日を

- 25 もし良き師が許してくれるなら
私はヨーロッパを離れ、海を渡り
アジアを征服し、ダリオ王と戦いに行くだろう
私が考えるように、彼は私の手に接吻することになるだろう

- 26 私自身にそのような大きな屈辱は見たくはないし
私の師と私を襲うのも望まない
というのはそれはひどい恥でありで、外見が非常に悪いから
王アレクサンダーに従うべき人がいるというのは

- 27 アルシデス⁴⁾は、私たちがよく読んでいるように、ベッドで
蛇を、自分を食い殺そうとしたので締め殺した
何か私とすでによく似ていたに違いない
私がネタナモの息子と取られることのないように⁵⁾》

- 28 王子はこういう考えと戦っていました
飢えたライオンのように歯をきしらせて
また鉄も蔓のように噛んでいました

彼が眠ろうとしなかったのをお知り置きください

- 29 王子は自分自身の中で比較していました
それは獅子の子にありがちな比較でした
床に横たわって狩りの獲物を見て
それを捕らえられないと心臓が高鳴ります
- 30 何度も動き回って、指をよじって
切望で唇をじっと閉じておくことができませんでした
すでに王子はメディア⁶⁾人の土地を襲って歩いていました
穀類を焼き、ブドウ畑を荒らして
- 31 王子は苦悩で青ざめていました
すべての楽しみを忘れ、悲しみ、体調をくずしていました
あたかも誰か偶然に彼に傷を負わせたかのように
あるいは何か悪い知らせを聞いたかのように
- 32 彼を育てた師アリストテレスは
当時自分の家に閉じこもって
論理学の三段論法を作り上げました
その夜もその日も決して休息しませんでした
- 33 しかし昼過ぎ⁷⁾に、第9時頃たったでしょうか
アリストテレスは弟子に会いに出かけました
誰でも見て分かったでしょう
ロウソクの光で夜なべをして、読書してきたところだと

- 34 目はギラギラして、顔色が変わり
髪は乱れ、頬は痩せこけ
頭に巻くバンドは、垂れ下がっていて
ちょっと押せば地面に倒れかねない様相でした
- 35 師は青ざめた弟子を見ると
非常な不安を覚えたのを知ってください
もっとひどく思える心痛が彼を襲ったことはありませんでした
それでその子（弟子）は彼を見て恐ろしくなりました
- 36 師は王子に問い始めました
《息子よ、どうしたのですか、だれがあなたを苦しめたのですか
もし私がそれを知ることができるなら、そんなことはさせません
あなたは私にこの事を隠すべきではありません》
- 37 王子は師を見ることができませんでした
彼に非常な敬意を払っていたので、逆らいたくはありませんでした
話す許可を求めると
師は喜んで与え、王子に始めるように命じました
- 38 師よ、あなたは私を育ててくれました、あなたによって私は知識
を得ています
あなたは私にとってもよくしてくれました、感謝しようもありません
7歳の時に父はあなたを私につけてくれました

というのは師の中であなたが非常に優れていたからです

- 39 私は必要なだけ十分な知識を得ています
あなたを除いては私を負かす人はいません
その事をあなたに感謝すべきだということを知っています
あなたはすべての分野を理解することを教えてくれました
- 40 私は文法もよく分るし、その構成要素も全部よく知っています
文章も詩も上手に書けますし、文体もよく知っています
著者たちもそらで言えますし、本については心配ありません
しかし私は全部忘れてしまいます、ひどく残念です
- 41 私は論理の筋立てを組み立てるのをよく知っていますし
二重の三段論法を破るのもよく知っています
私の敵を窮地に追い込むこともよく知っています
しかしすべて忘れてしまいます、とても残念です
- 42 私は洗練された雄弁家で、美しく話すことができます
言葉を飾り、人々をよく満足させられます
敵に罪をきせることもできます
しかしこのためにすべてを忘れてしまいます
- 43 私は医学をすべて習得して、立派な医者です
脈も尿もよく判ります
あなたを除いてもっと優勝な人も同じ程度の人はいません
しかしすべて一銭の価値もありません

- 44 私は音楽の技法により、また生来の資質により歌うことができます
私は美しい曲を作れるし、声を調和させることもできます
トーンがどのように始まって、どのように終わるべきかも知っています
しかしそれはちっとも私を慰めてくれません
- 45 私はすべての教養科目の論点に通じています
各々の自然の力の特性もよく知っています
太陽の印も自然の印の特性も
少しでも価値あるものは私から隠れ得ないでしょう
- 46 師よ、あなたのおかげで私は十分な知識があります
私は富がないのを決して恐れませんが
しかし私は苦悩と共に生き、悔悟と共に死ぬでしょう
もしダリウスの抑圧からギリシャを救い出さなければ
- 47 そのような恥ずかしい生き方は王にふさわしくありません
名誉ある死に方をしたほうがましでしょう
しかしもしあなたがそれをふさわしいことだとお考えなら
私は一度にポロとダリウスに立ち向かいましょう
- 48 アリストテレスはこの話に非常に満足し
自分の任務が無駄ではないと思いました
《聞きなさい、と彼は言いました、王子よ、少し私の話を
それによってあなたは常にもっと価値のあるお方になれます》

- 49 王子は答えました、この上ない生徒をお持ちになりました
《私はあなたの生徒で、あなたは私の師です
私はあなたの助言を造物主の助言のように待っています
非常に深い愛情から仰ることを学ぼうと思います》
- 50 王子はすぐに頭巾を取って
師の近く、椅子の脚元に座り
深いため息をつきました、非常に恥じていたからです
頬に心の痛みが見えていました
- 51 深い教養のある人間に相応しくアリストテレスは口を開きました
《息子よ、と彼は言いました、あなたは良い年齢に達しました
あなたは立派な人間になる準備ができています
もし初めた時のように続けることを望むなら
- 52 あなたは王の子息で、豊富な知識を持っています
あなたの内に私に向けられた強い願望を感じます
幼い頃からあなたは非常な勇気を見せていました
今日生きている者の中で、あなたは非常に優れています
- 53 何かしようとする時には必ず助言を得て行動しなさい
何かしたい時には臣下と話をしなさい
そうすれば彼らはもっと忠実になるでしょう
特に女への愛に用心しなさい
- 54 いったん男が女と関係を持つと

必ず後ろ向きになり、評判を落とし
魂を失いかねず、神が彼を憎み
いとも簡単に大きな不幸に陥りかねません

- 55 卑しい男の手にあなたの仕事を任せてはいけません
というのはあなたに悪い結果をもたらし、決して修正が効なくなるからです
悪い手綱さばきのように苦悩の内にあなたを見捨て
神がだけが守ってくれる所へあなたを追いつすでしょう

- 56 卑しい男は偉くなると、自分を抑えられません
すべての人を恐れるので、すべての人を抑圧したくなります
恥じるところのない人は失敗することをためらいません
このことすべてが起こるのを私たちは何度も見えています

- 57 しかし善良さにおいてその人が向上するのをあなたが見て
好意を示さないなら、不誠実でしょう
というのはすべての人は遺伝で知性をもっているのではなく
神が慈悲でその人に与えるものなのですから

- 58 酔っ払ったり、大食をしてはいけません
自分の言葉に確固として、誠実でありなさい
おべっか使いを愛したり、言うことを聞いてはいけません
これができないなら、あなたは何の価値もなくなるでしょう

- 59 あなたが人を裁く時には、常に正しく裁きなさい

欲や愛情や恨みに負けてはいけません
自分の好意を自慢しようと強く思っはいけません
それは非常に軽率な行為で、そこに利益はないからです

- 60 息子よ、臣下に腹を立ててはいけません
決して離れた所で臣下なしで食事をしてはいけません
絶対に激怒してはいけません
こうすればあなたは臣下に愛されるでしょう

- 61 息子よ、軍を出す時には
必ず年寄りを若者のために連れて行きなさい
戦いに役立つしっかりした助言をしてくれますから
彼らは戦場に入ったら、決して打ち負かされようとしません

- 62 もし力により全世界を征服したいと思うなら
富を集めたいという欲望に負けてはいけません
神があなたに与える物はすべて喜んで分け与えなさい
あなたが与えることができない時は、与えると約束しなさい

- 63 貪欲な君主は自分に何が起きているのか分かりません
武器も要塞も彼を死から護ってくれません
与えることは武器や要塞より価値があります
与えることは岩を砕きあらゆる名声をもたらします

- 64 もしあなたが喜んで与えようとするなら、あなたが与える物を
神があなたに与えるでしょう

今日持っていないくとも一月後に手に入れるでしょう
気前よく勇敢な人は気高いと思われます
できるのに与えない人は何の価値也没有せん

- 65 もし幸運にもあなたが生き延びるとしても
あるいはこの世でいくらかでも役に立つとしても
多くの大きな苦悩に遭遇し
分別と努力が必要になるでしょう

- 66 他の王国を征服しようと望む者は
剣で深手を負わせるすべを知る必要があります
敵が倍でもそれ以上でも逃げるべきではありません
前進し打ち負かすか死ぬかです

- 67 敵が目に入ったら
できるだけその戦術を読みなさい
しかしあなたのいる所から後退してはいけません
そして手の者に言いなさい、敵は女みたいだと

- 68 もし敵が大人数でも、あなたの手の者にはわずかだと言いなさい
向こうが三万人でも、三千人かそれ以下だと言いなさい
彼ら全部には一文の値打ちもないと言いなさい
これがあなたの手の者には心からよろこばしいことだと知りなさい

- 69 戦闘に入ったら、大いに陽気に振る舞って

言いなさい、《友よ、私はいつもこの日を待っていた
これは私たちの仕事であり、私たちの商品です
高槽⁸⁾などやっつけても手柄にはならないのだから

- 70 エクトルとディオメデスは武勇で
名声を得て、今日でも語り継がれてれています
アキレス⁹⁾についてはそんなに長くは伝えられないでしょう
もし彼の臆病な行為が知られてしまったら
- 71 人は言います、十分な努力は不運に打ち勝ち
立派に戦う人は後に書物に残され
ある日不朽の名声を得る
しかし誰も臆病者については話そうとしません
- 72 人は死から逃れられず
この世の富はすべて失われるのですから
人が言説や行いによって名声を得るのであれば
死んだ方が、あるいは生まれなかった方がましでしょう
- 73 あなたが正しく行動するだろうと判断する人には
義務を果たしなさいと言いなさい、ちゃんと理解するでしょうか
ら
傭兵には望むだけのものを約束しなさい
彼らの中には決して受け取らない多くの人たちがいるのでしょうか
ら

- 74 ある者たちを叱責し、他の者たちを満足させ
与え、約束して皆を喜ばせ
前衛の者も後衛の者も励ましなさい
この方法であなたはこの苦しみを癒せるでしょう
- 75 あなたの軍を上手に指揮し、ゆっくり行かせなさい
散ろうとする者は押し戻しなさい
彼らに絶対に隊列を離れようとしないように言いなさい
彼らに戦いを命じる時が来るまで
- 76 その時が来たら、あなたが最初に戦いなさい
良き伝令として伝言を伝えなさい
向かってくる者には貴族であることをちゃんと示しなさい
攻撃は誰が戦士であるかを教えてください
- 77 皆があなたに襲いかかり、戦況が変わるでしょう
すごい音がして、戦闘が激しくなるでしょう
あなたが倒すことができる者を決して何も守ったりすることがない
ように
そこにあなたのすべての不名誉の修復があります
- 78 そこがすべてが現れる所です
各々がどれだけ価値があるか、何の値打ちがあるのか
そこにあなたの力とすべての権限が現れますように
もしあなたが挫けるようなことがあれば死んだ方がましです

- 79 負傷しても、意に介してはいけません
戦闘に戻って、勇敢に剣で戦いなさい
何故にダリウスに貢ぎ物を納めるのか思い出しなさい
あなたの領地で彼が働いた侮辱行為の故にですよ
- 80 一番遠い所にいる兵士たちは弩の射手が射るように
一番近い所にいる兵士たちは騎手が攻撃するように
前衛の騎兵たちと盾を持っている兵士たちは
常にもっと前へ出さなければいけません
- 81 敵を速やかに攻撃して、休息を与えてはいけません
さらに彼らに背中を見せる時間を与えないように
戦闘で相手を容赦する者は
自分の手で自分の命を絶とうとするのです
- 82 神のお望みで、戦いに勝ったら
何か自分のために手に入れようとする欲望に捕われないように
あなたの苦勞した部下と得た物をちゃんと分けなさい
あなたは二倍の価値がある名声を手に入れます
- 83 こうすると後日彼らはもっと凶暴になるでしょう
勝とうとするためにもっと勇敢になるでしょう
ある者達は死に、他の者たちは傷つくでしょう
それはどうでも良いことです、あなたが勝てば臣下は減ることは
ないのですから

- 84 もし、神がそう望まないように、あなたの手の者が退却しても
あなたは戦場に止まりなさい、たとえ彼らが逃げ出しても
あなたが見えなくなったら、自分の間違いに気付いて
望まなくてもあなたの所に戻って来るでしょう
- 85 ツキが移り、運が変わり
あなたは戦いに勝ち、ダリウスは敗れるでしょう
ギリシャは抑圧から抜け出して、あなたは尊ばれるでしょう
そしてあなたの名誉は末長く続くでしょう》
- 86 王子は喜んで、助言を受けましたと思いました
命じられたことを一つも忘れませんでした
弱気が消え、とても満足しました
あたかもすでにこれをすべて習得したかのように
- 87 すでにダリウスとポロに停戦を拒んでいて
すでに金銀を分配していました
王子は雄牛のような太い喉をして
世界でユダヤ人ともモーロ人とも休戦しませんでした
- 88 すでに自分の物だと思っていました、バベルの塔も
インド、エジプト、シオンの地、
アフリカ、モロッコとそこにあるすべての王国、
太陽が沈むところまでシャッルルマーニュ¹⁰⁾が持っていたすべてを

- 89 十二月が過ぎて、一月に入った時
—そのような日に王子は生まれたのです、それは聖なる日でした—
軍神マルスの仲間である幸運な王子は
騎士になるために剣を身につけようと思いました
- 90 高価な贈り物や衣装が贈られました
下着は優に三千マルクかそれ以上するものでした
チュニカはピサに換えても買うことはできなかったでしょう
私はマントにはどうしても値をつけることはできません¹¹⁾
- 91 帯は非常な名人技で作られていました
フィロソフィア夫人が手ずから作ったものです
留め金は全ロンバルディアよりも価値のあるものです
—私の考えでは、私のものより少しばかり高価な品です—
- 92 靴の片方が町一つ分の値でした
靴下も負けず劣らず良質なものでした
誰でも莫大な遺産より手袋を欲しがったでしょう
それを得たものは決して貧困に落ち入ることはなかったでしょう
- 93 これらの物は彼の母親が取っておいた物でした
そしてフェリポ王に贈り物とした送られたのです
それらは何度も彼らに夢で示されましたが
誰も敢えて身につけようとはしませんでした

- 94 剣は非常によく作られたすばらしいものでした
ドン・ブルカンが作り、よく焼き入れがしてありました
魔法をかけてあったので、とても力がありました
それを持った側は負けなしだったでしょう
- 95 商人でもなければ、学校の学者でもありません
拍車の一つに値をつけられるのは
アレクサンダーには海の向こうに祖母がいて
彼女が子供の時にそれらを贈り物にもらったのです
- 96 盾の細工はあなたたちにうまくお話できるでしょう
そこには陸と海が描かれていました
王国と町と水量の豊かな川も
それぞれよく分かるように銘が刻まれて
- 97 盾の真ん中にはライオンがいました
それは鉤爪でバビロン全体をつかんでいて
ダリウスを睨んでおり、怒り狂っているようでした
というのはその目は赤く濁っていましたから
- 98 それは非常な光と輝きを放っていたので
月を負かし、太陽と競い合うほどでした
誰よりも優れた作り手であるアペレス¹²⁾さえ
見ればみるほどそれを最上のものだと思っていました
- 99 ウソだなんていわないでほしいものです、私は再び

衣服の質について一つ一つお話したいのです

私を正しく判断しようとするなら

私ははまだちゃんとそれらを評価できなかったとおっしゃるでしょう

- 100 下着は二人の妖精が海中で作りました
よく仕上げるために二つの特質を与えました
それを身に付ける者は誰でも酔っ払うことはない
決して欲情がその人を誘惑することはない
- 101 もう一人の妖精が三枚目のチュニカを作りました
作り終えると、それに非常な力を与えました
それを身に付ける者は常に忠実で
寒さも暑さもその人に害を及ぼすことはないでしょう
- 102 マントを作った人は誰もとてとても慎重な人で
それは大きくも小さくも、軽くも重くもありませんでした
それを身につけた者は皆あまり疲れず
力を取り戻すのにすぐに休まなくてすむでしょう
- 103 その上それをつけた人は恐怖心をまったく失くし
すべてにおいていつも朗らかになるでしょう
このように非常に貴重な価値あるマントは
そのような皇帝にふさわしい物でした
- 104 フィリップ王がこのマントを手に入れていました

かつてセルセス¹³⁾を破った時に
フィルップ王は運悪く以前にそれを失くしたのです
そうでなければ、あんなにひどく恥じ入ることはなかったでしょう

- 105 そのベルトについてちょっとお話したい
—わずかな言葉で述べようと思います—
それを巻いた人は、聞いたところによると
腫れ物ができることはないでしょう
- 106 あなた方に盾の素晴らしさを説明したいと思います
それは大きな魚の肋骨で作られました
鉄でもそれを突き通すことはできないでしょう、一鉄はそれほど
鋭くないでしょう—
それを持った騎士は打ち倒されることはないでしょう
- 107 腕が届く所は剣も届きました
それは強力に呪いがかけてあったので
ただ一撃を喰らった者は誰でも
相手の盾に槍を打つこむことはできなくなるでしょう
- 108 馬の素晴らしさは他のすべてを凌駕していました
この世にもっと良い、あるいは同等の馬はいませんでした
くつわを付けられたり、首輪で抑え込まれたりしませんでした
上質のガラスよりずっと白い色をしていました

- 109 三重の鉄柵に閉じ込められていて
そこで焼いたパンとワインで育てられました
どこからあえて近づく人は誰もいませんでした
非常な恐怖に駆られていたのです
- 110 その馬は多くの頑丈な錠前を歯で噛み砕いたことがあり
多くの頑丈なかんぬきを蹴破ったことがありました
また多くの人間を食い殺したり傷つけたりしました
そのようにして皆ひどく懲らしめられたのです
- 111 カパドキアの王が一名前は忘れましたが—
フィリポ王にそれを贈り物として送ったのです
決して馴らすことはできませんでした、それがその馬の宿命だったからです
それにまたがった者は誰でも、幸運な王になったでしょう
- 112 書物によると、象が
非常に大きな偶然でラクダにその馬を生ませたとあります
母から生来の身軽さを
父から強さと体型を受け継ぎました
- 113 王が泥棒を裁こうとした時
牢獄の代りにその馬に彼を与えました
馬は素早く彼を食べてしまいました、それほど食い意地がはっていたのです
二十四匹の狼が一匹の羊を食べるより早く

- 114 その馬の前には多くの手や足が散らばっていて
馬車 10 台かそれ以上でも運びきれないほどでした
そのことを聞いた人は皆強い恐怖心を抱きました
盗みでもしたら同じ目に会うことを知っていたからです
- 115 王子はこのような獐猛な馬の知らせを聞いて
言いました：《もし私が飼い慣らさなければ、誰もできないだろ
う
私が手に入れたとたん大人しくなると思う
私がそれにまたがれば獐猛さをすべて失うだろう》
- 116 王子は鉄の棒をとって、かんぬきを壊しました
ブシファル（その馬の名）¹⁴⁾が彼を見ると膝を屈め
頭を下げ、目を落としました
人々は皆目と目を見合わせました
- 117 馬はそれが自分の主人だと分かったのです
獐猛さを全く失い、喜びを満面に表し
あたりをぐるっと一緒に回りました
皆が言いました、《あの人は皇帝になるだろう》と
- 118 すぐに馬にくつわと鞍が取り付けられました
高価な腹帯と金の留め金も
耳には一重の頭巾が被せられ
装備はカスティリヤ全体より高価なものになりました

- 119 王子はその馬に乗ろうとはしませんでした
自分が武器を身につけ、祭壇に接吻するまでは
ブシファルは彼に感謝し、彼に頭を垂れました
王子がそうする必要はなかったのです
- 120 王子は武器を身につけに行きました
しかし彼は思慮深く、知識があったので
その前に神に祈りを捧げ、
習慣通り供え物をしようと思いました
- 121 《神よ—と彼は言いました—、あなたは世界を御自分の力の内に
持っています
天も地もあなたに従わなければなりません
お気に召すなら、私の行いを導いてください
私の考えていることが私によって成就するように
- 122 神よ、これらの武器にあなたの祝福を与えてください
あなたなしではどんな防御も何の価値がありませんから
それらの武器で大きな破壊をもたらすことができますように
ギリシャを大きな苦難から救い出すことができるように》
- 123 王子が祈りを終えると
跪いて祭壇の段に接吻しました
それから少し身を起こし、剣を身につけました
《その日に—と彼は言いました—ギリシャは来た》

- 124 その場から王子が去る前に
五百人以上の優れた男達を騎士にして
皆に非常に高価な装備を与えました
というのは皆その代価を支払おうとしていたからです
- 125 王子は馬に乗り、気晴らしに出かけました
馬は王子と一緒にとても喜んでいました
町々から人々が見にきました
彼らは言いました：《創造主は私たちに良い助けをくださった》
- 126 馬は非常に速く走ったので人々が飛んでいると言うほどでした
一ヶ月食べなくとも、決して不満はもらさず
戦いにおいて非常に主人の助けとなりました
近づく者に手綱を取らせませんでした
- 127 王子はそのような生活が続くことを望まず
冒険を求め、自分の力を試しに出かけました
騎士達でなく、わずかな者達を連れて行こうとしました
わずかな者達で足りることを試そうとしたのです
- 128 王子はその事を主に色々の土地を見るために行なったのです
山々の隘路や峠を知るために
そして新しい騎士を訓練するために
彼らが戦を遂行するのに慣れていくように
- 129 離れた土地で王子は非常に大胆な王に出会いました

大きな王国を支配し、とても恐れられていました
その王がこの人たちとその巧妙な王を見ると
かゆくもない所を何回も搔いて立ち去るのでした¹⁵⁾

- 130 その王は王子にどこの出か尋ねました
何を探しているのか、あるいはどのようにして
アレクサンダーは最初の質問の後すぐに答えました
自分の家系と血筋を
- 131 王子は言いました：《私は名をアレクサンダーと言います
ギリシャの王フィリポは私の父です
王妃オリンピアスが私の母であることをお知りおきください
私に災いをもって近づく者は、私から災いをもって去ることにな
ります
- 132 私たちは土地々を楽しく周っています
荒野や村々を冒険を探し
ある人々は容赦し、他の人々からは奪いながら
私たちに敵対する者には自慢はさせません》
- 133 ニコラオは言いました：《あなたはとても狂っている》
アレクサンダーは答えました：《私たちのことは心配しないでく
ださい
しかし私はまったく正気にあなたに助言したい
もし私たちから離れなければ、不運に見舞われますよ》

- 134 ニコロオは怒って、言い始めました
《私はあなたは気が触れていると思います、私はそれに堪えられない》
もし私に怒りであなたの顔にツバキさせるくらいなら
剣も棒もなしで私はあなたを死なせましょう
- 135 アレクサンダー王子は少し腹を立てました
しかしそのために馬鹿なことは言いたくありませんでした
ニコラオに言いました：あなたは道理を外れている
しかしそれでも言ったったことには答えなければなりません
- 136 》今休戦をしてあげます、もう一度市が立つまで
言い訳は不要ですあなたは武装してないのだから
しかしその日、小さな穴に隠れることのないように
この怒り狂った若者たちに見つけられないように
- 137 王子は指定された日に確かにやって来ました
ニコラオが臆病な様子を見せず彼を迎えました
軍は用意され、戦闘が開始されました
ニコラオはもしできるものなら、喜んで後悔したでしょう
- 138 戦闘は激しく、叫び声は大きいものでありました
角笛やラッパは大きい音を立てていました
双方から多くの戦死者が出て
空の馬がいたるところ走っていました

- 139 王子はニコラオを熱心に探したので
彼と出会うことができました
ドン・ニコラオは言いました：《自分を守ることを考えなさい
あなたが私に言ったことを、あなたに要求したいのです》
- 140 彼らは槍を下ろし、攻めあいました
ニコラオは的を外し、王子をとらえられませんでした
王子は狡猾でニコラオをしっかりとらえ
運が味方し、ニコラオを殺すことができました
- 141 ニコラオが死ぬと、戦場は平定されました
王子は軍を敗走させ、王国全土を手に入れ
豊かになり、高い名声を得て帰路に就きました
それから先づシファルは褒め称えられることになりました
- 142 王子は父の家でダリウス王の伝令たちを見ました
彼らは年貢台帳を要求しに来たのでした
書記が書状を読み終わると
王子が言いました：《私はこの年中行事を終わらせてやる
- 143 ダリオ王に言いに行きなさい—今すぐに—
フィリポ王が王妃との間に子供がなかったとき
一羽の雌鶏が王にいつも金の卵を生んでいました
王子が生まれると、その雌鶏は死んでしまいました》
- 144 伝令たちはひどく驚きました

皆この話しに感嘆して
彼をあえて見ることもできませんでした
できるものなら遠ざかっていたと思っていた

- 145 ダリウス王に書状が届く前に
 全インドにこの知らせが広まりました
 人々は皆不思議に思いました
 このようなことを言った人はどういう人だろうと
- 146 ダリウス王の下へ伝令が到着すると
 王子が自分に敵対していると知りました
 王は言いました：《私は自分がアルサニオ¹⁶⁾の息子だとは思わな
 い
 もし彼に私からひどい侮辱を受けさせるのであれば》
- 147 王はまだその言葉を終えていませんでした
 戦いがはじまったという知らせを受けたときには
 王はこの世の誰をも認めていませんでしたが
 馬にまたがって王子を攻めたいと思っていました
- 148 王は王子についてどんな様相なのか尋ねました
 どんな知性の人なのか、どんな術策を持っているのかと
 王子をよく知っている家来が言いました
 彼の様相と術策をお話しましょうと
- 149 《王子は大柄な騎士ではありませんが、立派な様相をしています

四肢はしっかりしていて、とても頑丈な関節をしています
腕はとても長く、手は非常に硬く
私はそのような脚を持った騎士を見たことはありません

150 片方の目は緑で、もう片方は朱色です
しかめ面をすると、老いた熊のようです
首筋は非常に大きな板のようで
皮膚はイラクサのようにざらざらしています

151 髪の毛はライオンのようで
声は雷のようで、怒れる心を持っています
教養とその技巧を知っていて
他の人より率直で努力家です

152 戦闘に入ると、非常に力強く
彼に近づく者はすぐに殺されます
一旦彼の手にかかると
気に入ろうが、気に入るまいがすぐに殺されます》

153 ダリウス王は彼の姿を羊皮紙に描かせました
どのような体からそのような勇気が出るのか知るために
しかし彼の本性を知ると、とても落ち込みました
しかし分別のある人間として気持ちを隠しました

154 王は言いました：《神がお助けくださるなら、お前たちに本当のことを言おう

お前たちは皆間違っている
しかし何を言われようと、私にはどうでも良い
ここからは私には狼の出る茂みが見えないのだから

- 155 若者というものは習い常に誇り高く
いつも横柄で、バカなことをします
しかし彼にとって不運にも私が彼と出会ったら
彼のマントを彼の寸法に合わせて裁断してやりましょう》
- 156 王は書状を送り罰すると脅しました
友にするように良い助言を与えたのです
彼がそのような軽率なことを考えないように
小麦のパンより良いものを求めないように
- 157 王は彼に可能なことを思い出すように言いました
古い言葉はいつも真実だと
どんな人も冗談で、本気ならなおさら
自分の主人とはケンカしようとはしないものだ
- 158 アレクサンダーはこれをすべてくだらないと思いました
彼は言いました：《私は多弁な男は決して恐れない
その様に振る舞う人間もホラ吹きです
しかし私は決してそのようなことにはならない
- 159 男はやたら大きい事を言うものではない
多く自慢する者はすぐにバカにされる

時が来るまで、私はだまっていたい
しかし彼が違うことを言う時がまだ来るはずだ》

160 フィリポの王国は、お前たちが聞いているように
非常に不安定で、すべてが破壊されている
その噂に乗じてアルメニアが反旗を翻し
フェリポ王に対して戦いを挑み始めた

161 フェリポ王はどうすべきか、どうすべきでないか悩んでいました
すでに状況が悪くなっていたので
というのはもし彼らがそのような大きな裏切りを達成したら
それによって王国全体が減んでしまうからです

162 アレクサンダーが戦況がどうなっているか見ると
言いました：《少しばかり不利な状況だからといって心配することはない
神が私だけを危険から守ってくれるとしたら
私は盾も手綱も彼らの役に立たないようにしよう

163 これらすべての上にさらに、お前たちに他の事を言いたい
神が私にもう 15 年だけ命をくだされば
全世界を私に仕えさせてお見せしよう》
《息子よ—と父が言いました—それは神に任せておきなさい》

164 王子は父と別れて、野営地を後にして
遅滞なく、家来衆と移動しました

神が彼に好天を与え、穏やかな海に出て
速やかに海を渡り対岸に着きました

- 165 アルメニアは裏切りを企てることができたのですが
不運から逃れることができず
他に負わせようとしたことが
結局すべて自分が被ることになったのです
- 166 人々が知る前に、王子は彼らのところに行きました
反乱はならず、王子は彼らを制圧することになりました
彼らに非常な懲らしめと損害を与えたので
今日でも孫たちも髪の毛が逆立つほどです
- 167 彼らを思う存分打ち負かすと
千人以上の手足を切り落とし、百人以上を縛り首にしました
彼らは皆永久に王子の命令に従い
決して再びそのような過ちは犯さないと誓いました
- 168 王子は自分の仕事が終わる
誇らしげに国に帰ると
事態が変わっているのを発見しました
彼がそこにいた時の状態とは
- 169 ある貴族が、地獄に落ちるかもしれませんが、
王妃に強く惹かれていましたが
どうしても彼女をものにすることはできませんでした

彼女は善良で身を護ることを良く知っていたからです

- 170 パウソナ¹⁷⁾という名で、神がこの男に休息を与えることのないように

彼をフィリポ王が裕福に、強力にしたのです

しかし不幸なことにその卑劣な男は狂ってしまい

悪い危険な事を考えました

- 171 彼は考えました、もしフィリポ王を殺すことができたなら

オリンピアスと彼女の意に反してでも結婚しよう

王国は彼を君主と見なすだろう

そして息子のアレクサンダーはそこには決して姿を表さないだろうと

- 172 パウソナは王に挑まれないうちに王と戦いを始め

意に反して王国を転戦しました

フェリポ王はそれを侮辱と思い

彼と戦いました、悪魔がそうさせたのです

- 173 その不実な男は知っていたので、もし自分が破れたら

誰も処刑されるのを助けてくれないだろうと

彼は裏切り者として悪意をすべてまといました

というのはまったく人間の形をした悪魔が彼の中にいたからです

- 174 彼はある峠で攻撃をしかけました、そこは人里離れた所でした

それは裏切り者がよく考えてあったことです

その場所は狭く、軍を配してありました
フェリポ王は非常に手痛い敗北を喫しました

- 175 王は致命傷を負い、仰天して立ちつくしました
これを見るとパウソナは勢いづき
この疑獄に落ちるかも知れない男は非常に自信を持ちました
あたかも自分の祖先が勝利を納めたかのように
- 176 パウソナは非常に優れていた王を死んだものと思い
オリンピアスのいる町へ行きました
しかしこの不幸な男は予測できませんでした
差し迫った自分の不幸を
- 177 王子は雲に乗ってやって来たのか、風が運んで来たのか
あるいは妖精が魔法で連れて来たのか
パウソナが血に塗られた軍旗を持って入って来るやいなや
疲れ果て汗まみれで彼に襲いかかりました
- 178 パウソナがそれを知ると、おしまいだと感じ
自分のせいでそうなったのが分かりました
しかし武器を取り、すぐに馬に乗り
王子に向かっていき、戦いを挑みました
- 179 彼は十分に準備した軍で戦いましたが
王子に皆とても苦しめられました
腕を切り落とされると、嘆き悲しんで逃げて行きました

一党は自分たちに起こったことを怖がっていました、不幸に見舞われるだろうと

180 王子は彼らを見ると直ちに攻撃に出ました
それから確実に敗走させ始めました
パウソナはできれば、抵抗したかったのですが
できたのは耐えることでした

181 幸運にも王子は彼と見えることになりました
彼を見るや抑えきれなくなり
彼と対決し、負かしてしまいます
裏切り者が求めたものを受け取ることになったのです

182 パウソナはできる限りのことをしました
アレクサンダーの盾に激しい一撃を加えると
彼が握っていた槍が砕けました
その不忠の輩はアレクサンダーを倒したと思いました

183 王子は男らしく彼を打ちました
他ならぬ心臓を狙いました
パウソナの全装備はまったく役に立たず
彼の背中の真ん中から軍旗が突き出ていました

184 王子は直ちに彼をを捕らえて吊るすように命じました
その場所で鳥が彼をついばみましたが、埋葬させませんでした
それから骨を火に投げ入れさせました

不実な男の痕跡が何も残らないように

- 185 裏切り者はふさわしく死にました
彼が伴っていたすべての者が同じ道をたどりしました
彼が望んでいたことが何一つ実現せず
その地方すべてが王子に従いました
- 186 すべての裏切り者はこのように死ぬべきです
この世のどんな富も彼らを護るべきではありません
人は皆神の恩寵を探し求めるように、彼らを探し出すべきです
天国も地も彼らを決して受け入れるべきではありません
- 187 王子は、お前たちが聞いたように、事が終わっても
今までのように武装していました
父がどうなったかを見に行き
死にかけて伏しているが分かりました
- 188 すでに目を閉じて死のうとしていました
弱って伏していたので魂と戦っていました
しかし息子が来たと分かると
失っていた意識を取り戻しました
- 189 すぐに目を開けると泣き始めました
王子の方を見ましたが話しかけることはできませんでした
腕を伸ばして抱擁してくれるように合図すると
息子はただちに従いました

- 190 神がすぐに少し回復させてくれました
王は言葉を取り戻し大いに喜び
王子に言いました：《息子よ、私はこの日をとっても待ち望んでいた
私はこれから死ぬことになるが、大したことではない
- 191 お前は非常に名誉あることをして、大きな価値を得た
ニコラオを殺し、アルメニアを手に入れた時のことだが
しかし今お前はお前の善意をすべて果したことになる
お前が不実なパウソナに私にために正義を行ってくれた時に
- 192 この褒美を創造主がお前に与えてくださるように
息子よ、創造主がお前を庇護の下に置いてくださるように
お前に満足して行いを導いてくださるように
裏切り者たちの手から、息子よ、お前を守ってくださるように
- 193 息子よ、私はお前を祝福する、創造主もそうしてくださるように
ダリウスに対してお前に勝利と名誉を与えてくださるように
お前を世界の皇帝にしてくださるように
これで私はおさらばして、天の宮廷に向かう》
- 194 フェリポ王の王国はひどいことになっていたでしょう
もし王子が運良く来なければ
しかし人々が彼を見ると、止みましたすべてのざわめきと
そして引き起こされた興奮すべてが

195 王子の高潔な父はまもなく死にました
 亡骸は他の王たちと同じくコリントに運ばれ
 ふさわしく埋葬されました¹⁸⁾
 王国がすべてが王子の支配下に入りました

注

- 1) 前文参照、1行 14音節同音韻 4行詩
- 2) ポルスはインドの王　ダリウスはペルシャ王ダリウスⅢ世のこと
- 3) エジプト王ネクタネボⅡ世のことで、魔術師だったと言われている
- 4) アルシデスはギリシャ神話でゼウスの不義の子、ローマ神話のヘラクレスにあたる
- 5) アルシデス誕生の話から、自分是不義の子ではないと言おうとした
- 6) メソポタミアにあった王国で当時はペルシャ人が支配していた
- 7) 当時昼の時間は日の出に始まり日没で終わり、12に分けられていた
- 8) 騎士が投げ槍の練習で標的にする板
- 9) エクトル、ディオメデス、アキレスはトロイ戦争の英雄
- 10) ずっと後世の人物であるシャルルマーニュを引き合いに出したのはこの叙事詩の特長で、随所に見られる
- 11) この連も後世の話との混同である
- 12) 有名なギリシャの画家（紀元前 4世紀の人物）
- 13) ペルシャのクセルクセス大王を指しているようである
- 14) アレクサンダー大王の有名な馬の名
- 15) 「何か良くない事を感じた」の意か
- 16) ダリウス王の父
- 17) 王妃に邪心を抱いた貴族
- 18) 実際に葬られたのは別の場所であった

参考図書・辞書

Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014

Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985

Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009

Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid 1976

アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 東京 1991

Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986

Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfópolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001